

臨牀 消化器内科 第 32 卷 ● 総目次

Vol. 32 / No. 1 ~ No. 13
(2017 年 1 月号 ~ 12 月号)

特 集

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|----------------------------|
| No. 1 | 胆管結石の治療〔特大号〕 | No. 7 | 大腸癌の診療〔増刊号〕 |
| No. 2 | 胃酸分泌抑制療法—その歴史的変遷と現状, 今後の課題 | No. 8 | 胆膵 EUS の進歩 |
| No. 3 | 消化管出血に対する診療—JGES ガイドラインをふまえて | No. 9 | 食道癌診療の進歩—現状と課題 |
| No. 4 | ESD 手技の標準化に向けて〔特大号〕 | No. 10 | 腸内細菌と臨床 |
| No. 5 | 肝疾患と栄養・サルコペニア | No. 11 | ピロリ菌陰性者にみられる胃疾患の診かた—胃癌を中心に |
| No. 6 | 高齢者・超高齢者消化管癌の内視鏡治療 | No. 12 | 内視鏡検診の実態と今後の課題 |
| | | No. 13 | 消化器癌の拡大内視鏡診断 |

● Vol. 32 No. 1 胆管結石の治療

- 巻頭言 杉山 政則 7~8
1. 総 論—胆管結石の治療 strategy
鈴木 裕・松本 亮太
小暮 正晴・横山 政明
中里 徹矢・阿部 展次
松岡 弘芳・正木 忠彦
森 俊幸・杉山 政則 9~13
2. 胆管結石の成因・機序・病態
大屋 敏秀・小林 知貴
田妻 進 15~20
3. 胆管結石の画像診断
潟沼 朗生・金 俊文
矢根 圭・永井 一正
高橋 邦幸・真口 宏介 21~28
4. EST(内視鏡的乳頭括約筋切開術)
祖父尼 淳・土屋 貴愛
辻 修二郎・田中 麗奈
糸井 隆夫 29~36
5. EPBD(内視鏡的乳頭バルーン拡張術)による胆管結石の治療
馬淵 正敏・安田 一朗
土井 晋平・辻川 尊之
関根 一智 37~40

6. EPLBD(内視鏡的乳頭大口徑バルーン拡張術)による胆管結石の治療
木田 光広・川口 佑輔
長谷川力也・宮田 英治
金子 亨・山内 浩史
奥脇 興介・岩井 知久
今泉 弘 41~48
7. PTCS(経皮経肝胆道鏡)による胆管結石の治療
伊原 諒・植木 敏晴
畑山 勝子・永山林太郎
土居 雅宗・丸尾 達 49~55
8. ESWL(体外式衝撃波結石破碎療法)による胆管結石の治療
三好 広尚・乾 和郎
山本 智支・片野 義明 57~61
9. 急性胆管炎の診断と治療
佐藤 愛・入澤 篤志
渋谷 悟朗・山部 茜子
藤澤真理子・荒川 典之 63~71
10. 消化管再建症例の内視鏡選択と治療
菊山 正隆・川口 真矢
寺田 修三 73~78

11. 超高齢者に対する治療	
川口 義明・川嶌 洋平	
川西 彩・小川 真実	
峯 徹哉	79～83
12. 出血傾向症例に対する内視鏡的胆管結石除去術	
原 精一・岡野 直樹	
伊藤 謙・宅間 健介	
吉本 憲介・五十嵐良典	85～96
13. Mirizzi 症候群と嵌頓結石	
露口 利夫・杉山 晴俊	
熊谷純一郎・高橋 幸治	
三方林太郎・酒井 裕司	97～102
14. 総胆管結石症における手術の役割	
柴尾 和徳・田村 利尚	
田嶋 健秀・佐藤 典宏	
平田 敬治	103～108
●Vol. 32 No. 2 胃酸分泌抑制療法—その歴史的変遷と現状, 今後の課題	
巻頭言	一瀬 雅夫 147～148
1. 胃酸分泌調節機構と胃酸分泌抑制療法の歴史的変遷	千葉 勉 149～154
2. 胃酸分泌抑制薬	
(1) 制酸薬から H ₂ 受容体拮抗薬(H ₂ RA)まで	
小泉 重仁・飯島 克則	155～159
(2) プロトンポンプ阻害薬(PPI)	
沖本 忠義・村上 和成	161～168
(3) カリウムイオン競合型アシッドブロッカー(P-CAB)	
木下 芳一・三上 博信	
沖本 英子・岡田真由美	169～175
3. 胃酸分泌抑制薬による治療の現状	
(1) 消化性潰瘍	佐藤 貴一 177～184
(2) <i>H. pylori</i> 除菌療法	古田 隆久 185～190
(3) NSAIDs 潰瘍	
平石 秀幸・福士 耕	
永島 一憲・金森 瑛	
高橋 史成・富永 圭一	191～197
(4) 逆流性食道炎	
星野慎太郎・川見 典之	
岩切 勝彦	199～204
(5) 非びらん性胃食道逆流症(NERD)	
竹内 利寿・樋口 和秀	205～211
4. 酸分泌抑制療法の課題と今後	
(1) カルチノイド	佐藤 祐一・西垣 佑紀

水野 研一・橋本 哲	
横山 純二・寺井 崇二	213～218
(2) 腸内細菌叢への影響と大腸疾患	
井上 泉・前北 隆雄	
加藤 順・一瀬 雅夫	219～224
(3) その他の課題—肺炎・骨関節疾患・認知症など	
白井 聖一・前北 隆雄	
加藤 順・北野 雅之	225～234
●Vol. 32 No. 3 消化管出血に対する診療—JGES ガイドラインをふまえて	
巻頭言	溝上 裕士 259～261
1. 消化管出血の成因, 疫学, 時代変遷	
新倉 量太・藤城 光弘	
小池 和彦	263～269
2. 吐血の評価と初期治療—咯血との鑑別を含めて	
加藤 元彦・木下 聡	
森 英樹・高林 馨	
菊池 真大・浦岡 俊夫	271～274
3. 下血・血便の評価と初期治療—両者の鑑別を中心に	
藤田 朋紀・小松 悠弥	
和賀永里子・高梨 訓博	
安保 智典・勝木 伸一	275～281
4. 内視鏡的止血法の種類と選択	
深津 和弘・井口 幹崇	283～288
5. 消化管出血に対する IVR の役割	佐藤 次郎 289～293
6. 消化性潰瘍出血に対する外科治療の役割	
阿部 展次・竹内 弘久	
長尾 玄・正木 忠彦	
森 俊幸・杉山 政則	295～300
7. 静脈瘤出血へのアプローチ	
渡辺 晃・引地 拓人	
小原 勝敏・高木 忠之	
紺野 直紀・大平 弘正	301～306
8. 消化性潰瘍出血へのアプローチ	
坂田 資尚	307～313
9. 静脈瘤, 消化性潰瘍以外の上部消化管出血に対するアプローチ	
角嶋 直美・滝沢 耕平	
田中 雅樹・川田 登	
吉田 将雄・小野 裕之	315～320
10. 小腸出血に対するアプローチ	
矢野 智則	321～326
11. 大腸憩室出血に対するアプローチ	
石井 直樹・池谷 敬	
岡田 修一・藤田 善幸	327～334

12. 大腸憩室出血以外の大腸出血に対する アプローチ		梅垣 英次・東 健	433～442
道田 知樹・小尾俊太郎	335～339	ポケット法(PCM)による手技の工夫	
13. 肛門部出血に対するアプローチ		林 芳和・山本 博徳	443～449
望月 暁・岡田 滋		4. 糸付きクリップによるトラクション補 助下 ESD	
北山 大祐・新井 健広		山崎 泰史・竹内 洋司	
松尾 恵五	341～346	上堂 文也・石原 立	
●Vol. 32 No. 4 ESD 手技の標準化に向けて		飯石 浩康	451～458
巻頭言	田中 信治	5. 術中偶発症とその対策	
1. 抗凝固薬・抗血小板薬服用中の患者の 取り扱い		岩井 朋洋・滝沢 耕平	
間部 克裕・中村 晃久		角嶋 直美・田中 雅樹	
久保 公利・加藤 元嗣	373～380	川田 登・小野 裕之	459～464
2. 鎮静薬の使用法, 術中管理・モニタリ ング		6. ESD 後の粘膜縫縮	
山下 聡・布袋屋 修		鮑本 哲兵・後藤 修	
貝瀬 満	381～385	佐々木 基・西澤 俊宏	
3. 安全な ESD のコツと偶発症の対処		矢作 直久	465～471
(1) 咽頭・喉頭 ESD		7. 術後管理	
小山 恒男・高橋亜紀子		(1) 食道 ESD 後狭窄に対する治療戦略― 狭窄予防治療抵抗性因子とステロイ ド経口+局注併用療法の有用性	
依光 展和	387～392	山口 直之・大仁田 賢	
(2) 食道 ESD		中尾 一彦・江口 晋	
Hook ナイフを用いた食道 ESD		磯本 一・金井 信雄	
平澤 大・橋本林太郎		大木 岳志・大和 雅之	473～484
田中 一平・山岡 肇		(2) 胃 ESD の術後管理	
松田 知己・中堀 昌人		皆川 武慶・住吉 徹哉	
長南 明道	393～400	近藤 仁	485～489
食道 ESD の手技的ポイントと周術期 管理		(3) 大腸 ESD の術後管理	
菊池 大輔・飯塚 敏郎		高丸 博之・斎藤 豊	
布袋屋 修・貝瀬 満	401～407	山田 真善・坂本 琢	
(3) 胃 ESD		中島 健・松田 尚久	491～500
IT ナイフを用いた手技の工夫		●Vol. 32 No. 5 肝疾患と栄養・サルコペニア	
野中 哲・小田 一郎		巻頭言	沖田 極
阿部清一郎・鈴木 晴久		1. 肝疾患とサルコペニア	515～516
吉永 繁高・斎藤 豊	409～416	(1) 肝疾患におけるサルコペニアとその 発生メカニズム	
Dual ナイフ J を用いた ESD のコツ		平松 憲	517～523
前畑 忠輝・落合 康利		(2) 諸外国におけるサルコペニアの診断 基準と問題点	
佐々木 基・木口 賀之		日野 啓輔・佐々木 恭	525～528
光永 豊・鮑本 哲兵		(3) 「肝疾患におけるサルコペニアの判定 基準(第1版)」について	
藤本 愛・後藤 修		西川 浩樹・西口 修平	529～536
西澤 俊宏・矢作 直久	417～422	(4) 肝硬変患者の予後と栄養・サルコペ ニア	
(4) 十二指腸 ESD		白木 亮	537～542
田島 知明・大圃 研		(5) 肝癌患者の予後と栄養・サルコペ ニア	
里館 均・堀内 啓		藤原 直人・建石 良介	
松橋 信行	423～431	小池 和彦	543～549
(5) 大腸 ESD			
施術におけるクオリティコントロール			
小原 佳子・豊永 高史			
石田 司・森田 圭紀			

(6) 肝移植・肝切除と栄養・サルコペニア	
海道 利実・濱口 雄平	
奥村 晋也・小林 淳志	
白井 久也・上本 伸二	551～558
2. 肝硬変・肝癌患者の栄養療法	
(1) 肝疾患栄養サポート外来の実際と意義	
原 なぎさ・岩佐 元雄	
世古口典子・奥村 泉	
竹井 謙之	559～565
(2) 肝硬変・肝癌患者に対する分岐鎖アミノ酸製剤療法	
豊田 秀徳・多田 俊史	
熊田 卓	567～571
(3) 肝硬変患者に対するカルニチン補充療法の意義	
斉藤 雅也	573～579
3. NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)の栄養療法	
(1) NASH/NAFLD に対する食事・運動療法の効果	
橋田 竜騎・川口 巧	
志波 直人・鳥村 拓司	581～587
(2) 管理栄養士による NAFLD/NASH 患者への長期栄養食事指導の効果	
阿部 聡司・深澤 尚子	
今井 径卓・吉田 俊明	
寺井 崇二・石川 達	589～595
●Vol. 32 No. 6 高齢者・超高齢者消化管癌の内視鏡治療	
巻頭言	工藤 進英 639～640
1. 総論	
(1) 抗凝固薬、抗血小板薬使用者に対する内視鏡治療時の留意点	
皆月ちひろ・小野 敏嗣	
齋藤 格・山道 信毅	
藤城 光弘・小池 和彦	641～647
(2) 内視鏡治療時の鎮静・鎮痛薬使用にあたっての留意点	
西澤 俊宏・木口 賀之	
光永 豊・鮑本 哲兵	
矢作 直久	649～654
2. 各論	
(1) 食道癌	
a. 食道癌に対する内視鏡治療の現況	
飯塚 敏郎・菊池 大輔	
布袋屋 修・貝瀬 満	655～660
b. 食道早期癌に対する APC 焼灼治療法の位置づけ	
田邊 聡・久保田 陽	
石戸 謙次・和田 拓也	

東 瑞智・堅田 親利	
小泉和三郎	661～665
c. 食道早期癌に対する PDT 照射療法の位置づけ	
南出 竜典・矢野 友規	667～671
(2) 胃癌	
a. ESD 治療の現況	
山本 頼正・堀内 裕介	
由雄 敏之・平澤 俊明	
石山晃世志・藤崎 順子	673～678
b. 内視鏡治療後の周術期管理	
赤坂 智史・上堂 文也	679～683
c. 内視鏡治療後の経過観察はいつまで施行するか？	
深瀬 和利	685～688
d. 外科治療の適応と実際	
大日向玲紀・岩崎 善毅	689～697
(3) 大腸癌	
a. 高齢者内視鏡治療の現況	
居軒 和也・斎藤 豊	
山田 真善・坂本 琢	
中島 健・松田 尚久	699～705
b. 内視鏡治療の周術期管理	
村元 喬・大圃 研	
瀧田麻衣子・田島 知明	
酒井 英嗣・松橋 信行	707～712
c. 内視鏡治療後の経過観察はいつまで施行するか？	
岡 志郎・田中 信治	
嶋田賢次郎・二宮 悠樹	
茶山 一彰	713～720
d. 外科的治療の適応と実際	
福長 洋介・上野 雅資	
藤本 佳也・小西 毅	
秋吉 高志・長崎 寿矢	721～725

●Vol. 32 No. 7 大腸癌の診療

① 大腸癌の疫学と基礎	
1 大腸癌罹患率、死亡率の動向一日本と海外の比較	
雑賀公美子	766～769
2 大腸がん検診一日本と海外の現状	
尾田 恭	770～775
3 全国統計から見た大腸内視鏡検査の実際	
田中 聖人	776～785
4 全国大腸癌登録から見た大腸癌治療成績・予後	
小林 宏寿	786～790
5 大腸癌の危険因子一疫学的観点から	
笹月 静	791～795
6 大腸ポリープ・大腸癌と代謝性疾患・肥満	
日暮 琢磨・梅沢翔太郎	

7 大腸癌の化学予防	中島 淳	796～801	Ⅲ 大腸癌の治療		
武藤 倫弘・宮本 真吾			1 「大腸癌治療ガイドライン 2016 年版」の概要	石川 敏昭・石黒めぐみ	
鱧屋 隆博・田村 秀哉				植竹 宏之・杉原 健一	872～879
8 遺伝性大腸癌の基礎と臨床	藤井 元	802～806	2 日本消化器内視鏡学会編「大腸 ESD/EMR ガイドライン」の概要	田中 信治	880～886
石田 秀行・近 範泰			3 早期大腸癌に対する内視鏡治療	浦岡 俊夫・伴野 繁雄	
鈴木 興秀・石橋敬一郎				木下 聡・森 英毅	
持木 彫人・岩間 毅夫		807～812		中里 圭宏・松下美紗子	
9 散発性大腸癌における分子メカニズム	池上 恒雄	813～817		菊池 真大・西澤 俊宏	887～893
10 大腸鋸歯状病変の分子メカニズム			4 結腸癌に対する標準手術療法	根岸 真人・正木 忠彦	894～899
岡本 耕一・川口 智之			5 直腸癌に対する標準手術療法	金光 幸秀・志田 大	
影本 開三・藤本 大策				塚本 俊輔・落合 大樹	900～907
六車 直樹・高山 哲治		818～824	6 経肛門的外科的切除—MITAS および TEM を含めて	前田耕太郎・花井 恒一	
Ⅱ 大腸癌の診断				勝野 秀稔・升森 宏次	
1 大腸癌における腫瘍マーカーの臨床的意義	小尾俊太郎・正木 宏明			小出 欣和・松岡 宏	908～911
	道田 知樹	826～829	7 大腸癌原発巣に対する外科治療 update	野澤 宏彰・渡邊 聡明	912～916
2 大腸癌の注腸 X 線検査, CT・MRI・PET 検査			8 閉塞性大腸癌に対するアプローチ—大腸ステント	齊田 芳久	917～922
石川 勉・小林 望				多田 訓子・石原聡一郎	
平林かおる		830～838		森 健・清松 知充	
3 CT コロノグラフィーの現状と展望	藤原 正則	839～841		渡邊 聡明	923～927
4 大腸カプセル内視鏡の現状と展望	角川 康夫・居軒 和也		10 術前・術後補助化学療法的位置づけ	濱口 哲弥	928～932
	高丸 博之・松本美野里		Ⅳ 切除不能進行・再発大腸癌への試み		
	松田 尚久・斎藤 豊	842～846	1 Stage IV 大腸癌に対する治療戦略—日本と欧米の比較	濱 良太・新井 裕之	
5 大腸腫瘍の内視鏡観察—通常内視鏡から色素内視鏡				中島 貴子	934～939
	並河 健・斎藤 彰一		2 大腸癌薬物療法における分子標的薬の治療選択	三島 沙織・坂東 英明	
	井出 大資・千野 晶子			吉野 孝之	940～951
	河内 洋	847～852	3 大腸癌骨転移に対する治療戦略	時崎 暢・河野 博隆	952～956
6 大腸腫瘍の内視鏡診断—光デジタル法	内海 貴裕・岩館 峰雄		4 肺転移に対する治療戦略	池田 岳史・河野 匡	
	服部 三太・蓮池 典明			藤森 賢・鈴木聡一郎	
	佐野 互・佐野 寧	853～859		飯田 崇博	957～961
7 大腸癌の超音波内視鏡診断	清水 誠治・富岡 秀夫				
	高島 英隆・横溝 千尋				
	上島 浩一・福田 亘	860～864			
8 大腸癌の病理診断—内視鏡切除検体から外科手術検体まで	二村 聡・石橋 英樹				
	木庭 郁朗・中屋 照雄				
	川上真寿弘・山口 将太	865～870			

5	肝転移に対する治療戦略—内科の視点から	椎名秀一朗・佐藤 公紀 中川 勇人・近藤 祐嗣 浅岡 良成・建石 良介 小池 和彦	962～966
6	肝転移に対する治療戦略—外科の視点から	野呂 拓史・星川真有美 西川 誠・青笹 季文 山本 順司	967～976
7	緩和的大腸ステント留置の位置づけ	成田 明子・吉田俊太郎 藤城 光弘・小池 和彦	977～982
V	特殊な大腸腫瘍・腫瘍様病変		
1	大腸鋸歯状病変	山野 泰穂・田中 義人 中岡 宙子・菅井 有 山本英一郎・鈴木 拓	984～991
2	大腸神経内分泌腫瘍(NET)	千野 晶子・田顔夫佑樹 井出 大資・五十嵐正広 斎藤 彰一	992～997
3	Colitic cancer	加藤 順	998～1003
4	虫垂腫瘍	矢野 秀朗・合田 良政 秀野 泰隆	1004～1008
5	肛門管腫瘍	近藤 彰宏・伊藤 雅昭 塚田祐一郎・西澤 祐吏 佐々木剛志	1009～1012
6	大腸ポリポース	鈴木 悠土・廣岡 芳樹 中村 正直・渡辺 修 後藤 秀実	1013～1017
VI	大腸腫瘍のトピックス		
1	オルガノイドを用いた大腸癌幹細胞研究	須河 恭敬・佐藤 俊朗	1020～1023
2	腸内細菌叢と大腸癌	安藤 朗	1024～1029
3	大腸内視鏡介入による大腸癌発症予防	松田 尚久・関口 正宇 斎藤 豊・佐野 寧 藤井 隆広	1030～1038
4	腺腫検出率(ADR)向上を目指した内視鏡機器開発	玉井 尚人・炭山 和毅	1039～1042

5	大腸癌血液中 ctDNA を用いたリキッドバイオプシー	崎村正太郎・胡 慶江 三森 功士	1043～1048
6	大腸腫瘍における顕微内視鏡観察	工藤 進英・森 悠一 若村 邦彦・三澤 将史 工藤 豊樹・武田 健一	1049～1054
●Vol. 32 No. 8 胆膵 EUS の進歩			
巻頭言		糸井 隆夫	1071
1. EUS の基本事項			
	良沢 昭銘・谷坂 優樹 小畑 力・原田 舞子 小林 正典		1073～1079
2. EUS による観察			
(1) 膵臓の観察			
	木田 光広・松本 高明 上原 一帆・川口 佑輔 長谷川力也・宮田 英治 金子 亨・山内 浩史 奥脇 興介・宮澤 志朗 岩井 知久・菊地 秀彦 今泉 弘・小泉和二郎		1081～1090
(2) 胆道の観察			
	岡野 直樹・五十嵐良典 岩崎 将・原 精一 宅間 健介・伊藤 謙		1091～1098
3. EUS-FNA による診断			
(1) 膵 診 断			
	岩屋 博道・脇岡 範 水野 伸匡・桑原 崇通 奥野のぞみ・原 和生		1099～1108
(2) 胆道診断			
	小倉 健・都木 航 奥田 篤・佐野 達志 恩田紗緒里・樋口 和秀		1109～1115
4. EUS-FNA による治療			
(1) 急性膵炎後局所合併症の治療			
	向井俊太郎・祖父尼 淳 土屋 貴愛・辻 修二郎 田中 麗奈・糸井 隆夫		1117～1124
(2) 膵管ドレナージ			
	潟沼 朗生・金 俊文 矢根 圭・永井 一正 田中 一成・真口 宏介		1125～1130
(3) 胆管ドレナージ			
	牧 匠・入澤 篤志 渋川 悟朗・佐藤 愛 山部 茜子・藤澤真理子 荒川 典之・吉田 栄継		

	池田 恒彦・阿部 洋子 五十嵐 亮・山本 勝悟	1131～1138
(4) 胆嚢ドレナージ	松原 三郎・伊佐山浩通 中井 陽介・木暮 宏史 水野 卓・小池 和彦	1139～1144
(5) ランデブー法による胆嚢ドレナージ	土井 晋平・関根 一智 辻川 尊之・馬淵 正敏 安田 一朗	1145～1150
(6) 腹腔神経叢/神経節ブロック	三長 孝輔・北野 雅之 宮田 剛・今井 元 竹中 完・工藤 正俊	1151～1159
(7) 抗腫瘍療法	廣岡 芳樹・川嶋 啓揮 大野栄三郎・石川 卓哉 後藤 秀実	1161～1165
●Vol. 32 No. 9 食道癌診療の進歩—現状と課題		
巻頭言	北川 雄光	1191～1192
1. 「食道癌取り扱い規約」第11版にみる食道癌診療の現状	松原 久裕	1193～1198
2. 食道癌の疫学	山地 太樹・津金昌一郎	1199～1204
3. 食道癌の診断		
(1) 存在診断—内視鏡診断の現状～サーベイランス	都宮 美華・有馬美和子	1205～1210
(2) 進行度診断—深達度, 転移, 多発癌	鈴木 悠悟・飯塚 敏郎 菊池 大輔・大倉 遊 布袋屋 修・宇田川晴司	1211～1218
4. 食道癌の治療		
(1) 内視鏡治療	小田島慎也・藤城 光弘 小池 和彦	1219～1226
(2) 外科治療	山崎 誠・田中 晃司 牧野 知紀・森 正樹 土岐祐一郎	1227～1232
(3) 周術期補助療法—術前補助療法・術後補助療法	八木 浩一・佐藤 靖祥 西田 正人・山下 裕玄 野村 幸世・瀬戸 泰之	1233～1241
(4) 放射線療法・化学放射線療法	伊藤 芳紀	1243～1250
(5) 進行・再発癌に対する治療	稲垣 悠二・高島 淳生	

(6) 緩和療法	朴 成和	1251～1256
(7) 光線力学的療法の現状	白井 聖一・井口 幹崇 北野 雅之	1257～1263
(8) がん免疫療法の今後の展開	天沼 裕介・堀松 高博 武藤 学	1265～1270
5. バレット食道癌の診療	小島 隆嗣・中面 哲也 石原 立	1271～1276 1277～1282
●Vol. 32 No. 10 腸内細菌と臨床		
巻頭言—生命を支える腸内細菌叢 microbiota との共存	屋嘉比康治	1311～1312
1. 腸内細菌と消化器疾患		
(1) 腸内細菌の生理的役割—正常と異常の違いは	井上 亮・安藤 朗	1313～1318
(2) 腸内細菌と化学療法—クロストリジウムディフィチル感染症を中心に	岡 秀昭	1319～1324
(3) 腸内細菌と便通異常・過敏性腸症候群	金澤 素・福土 審	1325～1333
(4) 腸内細菌と炎症性腸疾患	大草 敏史	1335～1345
(5) 腸内細菌とNSAID潰瘍	加藤 孝征・結束 貴臣 日暮 琢磨・中島 淳	1347～1351
(6) 腸内細菌と大腸がん	大島 茂・渡辺 守	1353～1357
(7) 腸内細菌と肝疾患	富田 謙吾・穂苅 量太	1359～1364
2. 腸内細菌と他疾患		
(1) 腸内細菌と精神疾患	金子 宏	1365～1370
(2) 腸内細菌と肥満・糖尿病	金澤 昭雄	1371～1376
(3) 腸内細菌とアレルギー性疾患および食物アレルギー	福家 辰樹・成田 雅美	1377～1382
3. 腸内細菌と治療		
(1) 腸内細菌に対する食物の影響	池松 真也	1383～1388
(2) 腸内細菌に対するプロバイオティクス投与の影響	岡田 義清・穂苅 量太	1389～1393
(3) 腸内細菌と糞便微生物移植法	水野 慎大・金井 隆典	1395～1401

●Vol. 32 No. 11 ピロリ菌陰性者にみられる胃疾患の
診かた—胃癌を中心に

巻頭言	上村 直実	1431~1433
1. <i>H. pylori</i> 陰性者の時代的変遷と疫学	塩田 星児・村上 和成	1435~1441
2. <i>H. pylori</i> 陰性者の判定法	平田 喜裕	1443~1450
3. <i>H. pylori</i> 未感染者・既感染者の胃内視鏡所見	間部 克裕・西村 友佑 久保 公利・加藤 元嗣	1451~1456
4. <i>H. pylori</i> 未感染・既感染者の胃病理所見	塚本 徹哉・岡部 麻子 田原沙佑美・中川 満 桐山 論和・黒田 誠	1457~1462
5. <i>H. pylori</i> 陰性者にみられる胃びらん・胃潰瘍	塩谷 昭子・合田 杏祐 村尾 高久・藤田 穰 松本 啓志・鎌田 智有	1463~1469
6. <i>H. pylori</i> 除菌後発見胃癌	吉田 尚弘・波佐谷兼慶 土山 寿志	1471~1478
7. <i>H. pylori</i> 未感染胃癌(未分化型胃癌)	山本 頼正・堀内 裕介 藤崎 順子	1479~1485
8. <i>H. pylori</i> 未感染胃癌(胃底腺型胃癌)	上山 浩也・八尾 隆史	1487~1496
9. EB ウイルス関連胃癌と <i>H. pylori</i>	牛久 綾・牛久 哲男	1497~1502
10. 遺伝性疾患に伴う胃癌	新村 和也	1503~1510

●Vol. 32 No. 12 内視鏡検査の実態と今後の課題

巻頭言	加藤 元嗣	1533~1534
1. 日本における胃内視鏡検査の課題	間部 克裕・西村 友佑 久保 公利・加藤 元嗣	1535~1541
2. リスク層別化による効率的で質の高い胃内視鏡検査のあり方	井口 幹崇・吉田 岳市 前北 隆雄・加藤 順 一瀬 雅夫・北野 雅之	1543~1548
3. 受容性の高い内視鏡検査とは?—経鼻内視鏡と鎮静内視鏡の比較	小林 正夫・望月 直美 釜口 麻衣・西大路賢一	1549~1555
4. 胃内視鏡検査における質の評価とその向上のための工夫	河村 卓二・碓山 直邦	

	上田 悠揮・真田 香澄 宇野 耕治・安田健治朗	1557~1561
5. 胃内視鏡検査の導入に向けた教育システムと指導体制のあり方	吉村 理江・吉村 大輔	1563~1570
6. 胃内視鏡検査の精度管理体制構築と課題	加藤 勝章	1571~1577
7. 大腸がん検査の現状(FIT 検査, 地域格差)	野崎 良一・原 敬行 椎葉 保樹・黒田 浩敬 山田 一隆	1579~1588
8. 費用対効果の視点からみた大腸がん検査	関口 正宇・松田 尚久	1589~1595
9. 大腸癌罹患と死亡の減少を目指した先制医療の現状と将来展望	石川 秀樹	1597~1602
10. 新島 STUDY に基づく大腸内視鏡検査の安全性・有効性評価	堀田 欣一・松田 尚久 角川 康夫・池松 弘朗 小林 望・斎藤 豊	1603~1608
11. 大腸内視鏡検査における quality indicator とは?	今井健一郎	1609~1616
12. 内視鏡介入型の対策型大腸がん検査に向けた今後の課題	松田 尚久・関口 正宇 中村 佳子・角川 康夫 斎藤 豊・田尻 久雄	1617~1626
13. 内視鏡検査のデータベースと Japan Endoscopy Database (JED) Project	松田 浩二・田中 聖人	1627~1632

●Vol. 32 No. 13 消化器癌の拡大内視鏡診断

巻頭言	工藤 進英	1656~1657
1. 咽喉頭領域の表在癌の拡大観察診断	菊池 大輔・飯塚 敏郎 田中 匡実・武田 英彦 布袋屋 修	1659~1668
2. 食道表在癌の拡大観察診断	石山晃世志	1669~1675
3. バレット食道癌の拡大観察診断	清水 智樹・藤崎 順子 山崎 明・大前 雅実	1677~1684
4. 胃癌の範囲診断における拡大観察の役割—非腫瘍/腫瘍の鑑別となる病変も含めて	八木 一芳・小田知友美	

星 隆洋・森田 慎一 兼藤 努・須田 剛士 寺井 崇二	1685～1693
5. 分化型胃癌・未分化型胃癌の拡大内視鏡診断	
金坂 卓・八尾 建史	1695～1700
6. 胃底腺型胃癌の拡大観察診断	
上山 浩也・八尾 隆史	1701～1711
7. 胃非上皮性悪性腫瘍の拡大観察診断	
前川 聡・上堂 文也 中平 博子・竹内 洋司 東野 晃治・石原 立	1713～1718
8. 十二指腸腫瘍・癌の拡大観察診断	
山本 頼正・堀内 裕介 大前 雅実・平澤 俊明 由雄 敏之・石山晃世志 土田 知宏・藤崎 順子	1719～1725
9. 大腸の腫瘍・非腫瘍の拡大観察診断	
新村 健介・伊藤 鍊磨	

池松 弘朗	1727～1731
10. 大腸早期癌の拡大観察診断	
永田 務・鶴田 修 鳥村 拓司	1733～1740
11. SSA/P 合併癌の拡大観察診断	
伴野 繁雄・浦岡 俊夫 東 玲治・木下 聡 森 英毅・西澤 俊宏	1741～1748
12. Colitic cancer・dysplasia の拡大観察診断	
樋田 信幸	1749～1754
13. 大腸病変に対する Endocytoscopy を用いた自動診断システム	
工藤 進英・武田 健一 森 悠一・三澤 将史 工藤 豊樹	1755～1761

|||||内視鏡の読み方(連載)|||||||

Vol. 32 No. 1

Meckel 憩室内翻症の1例

赤司 太郎・大仁田 賢 金高 賢悟・竹島 史直 安倍 邦子・中尾 一彦	133～137
---	---------

Vol. 32 No. 2

大腸限局性 AL アミロイドーシス

小林 正明・水野 研一 橋本 哲・横山 純二 寺井 崇二・本間 照	240～244
---	---------

Vol. 32 No. 3

憩室性大腸炎と考えられる1例

橋口 慶一・大仁田 賢 松島加代子・竹島 史直 中島 正洋・中尾 一彦	356～361
---	---------

Vol. 32 No. 5

NBI 併用拡大内視鏡が質的診断・境界診断に有用であった *H. pylori* 除菌後低異型度分化型早期胃癌の1例

小島 俊樹・長濱 孝 八尾 建史・植木 敏晴 原岡 誠司・岩下 明德	611～616
--	---------

Vol. 32 No. 6

似て非なる疾患か？—collagenous gastritis と collagenous colitis

小林 正明・星 隆洋 森田 慎一・兼藤 努 須田 剛士・藤原 敬人	730～734
---	---------

Vol. 32 No. 8

NBI による大腸 T1b 癌の内視鏡診断—典型例と困難例

吉田 直久・内藤 裕二 小木曽 聖・岸本 光夫 伊藤 義人	1166～1172
-------------------------------------	-----------

Vol. 32 No. 10

NBI による大腸腫瘍・非腫瘍の内視鏡診断—典型例と困難例

吉田 直久・内藤 裕二 村上 貴彬・岸本 光夫 伊藤 義人	1408～1415
-------------------------------------	-----------

Vol. 32 No. 11

大腸内視鏡による効率の良いポリープの発見について

吉田 直久・内藤 裕二 稲田 裕・岸本 光夫 伊藤 義人	1516～1522
------------------------------------	-----------

Vol. 32 No. 12

NBI 併用拡大内視鏡の除菌後胃癌および未除菌胃癌に対する範囲診断能の検討

内多 訓久・岩崎 丈紘 小島 康司・岩村 伸一 頼田 顕辞・黒田 直人	1641～1646
---	-----------

|||||検査値の読み方(連載)|||||

Vol. 32 No. 1

原発性胆汁性胆管炎(肝硬変)に合併した後
腹膜傍神経節腫の1例

三浦 英明・木村 祐介
阿部 学・飯原久仁子 125～132

Vol. 32 No. 2

胆道系酵素の著明な上昇を伴う急性肝障害
をきたした症例

大木 隆正 235～239

Vol. 32 No. 4

肝サルコイドーシスの治療奏効後に肝障害
を認めた1例の検査値の推移

手島 一陽 501～506

Vol. 32 No. 6

急性C型肝炎の臨床経過を検査値から読み
解く

近藤 泰輝 726～729

Vol. 32 No. 8

肝硬変における糖代謝マーカー糖化アル
ブミンとヘモグロビンA1c

水田 敏彦 1178～1182

Vol. 32 No. 9

急性肝不全をきたした単純ヘルペスウイル
ス肝炎の1例

今 一義・池嶋 健一
渡辺 純夫 1293～1296

Vol. 32 No. 10

エンテカビル投与中にブレイクスルーをき
たしたB型慢性肝炎の1例

光井 洋・橋本 直明 1403～1407

Vol. 32 No. 11

中年女性に発症した肝障害の1例

中牟田 誠 1511～1515

Vol. 32 No. 12

HBVジェノタイプ測定とHBs抗原量測定の
意義

近藤 泰輝・福田 遼 1637～1640

|||||薬の知識(連載)|||||

Vol. 32 No. 3

肝性脳症治療薬 リファキシミン(リフキシ
マ[®])

鈴木 一幸・滝川 康裕 347～349

Vol. 32 No. 9

経口腸管洗浄剤 ピコプレップ[®]

上野 文昭 1290～1292

Vol. 32 No. 11

潰瘍性大腸炎治療薬 MMX-5-ASA 製剤(リ
アルダ[®])

本谷 聡・杉山 浩平

宮川 麻希・那須野正尚
田中 浩紀 1523～1526

Vol. 32 No. 12

テノホビルアラフェナミドフマル酸(ベムリ
ディ[®])

泉 並木 1633～1636

|||||手技の解説(連載)|||||

Vol. 32 No. 6

ダブルバルーン腸管チューブを用いたEUS
ガイド下胃空腸吻合術(EPASS)

糸井 隆夫・祖父尼 淳
土屋 貴愛 735～738

Vol. 32 No. 8

Underwater EMRを用いた大腸ポリープ切
除法

古橋 広人・加藤 正之
炭山 和毅 1173～1177

|||| 講 座(連載) |||||

Vol. 32 No. 1

胃底腺粘膜に発生する分化型上皮性腫瘍を
理解する

九嶋 亮治・松原亜季子 115～120

|||| 内科医にもわかる肝生検の見方(連載) |||||

Vol. 32 No. 1

6 慢性胆汁うっ滞型の肝障害(2)
全 陽 109～114

Vol. 32 No. 2

7 慢性胆汁うっ滞型の肝障害(3)
全 陽 245～249

Vol. 32 No. 3

8 脂肪性肝障害(1)
全 陽 350～355

Vol. 32 No. 5

9 脂肪性肝障害(2)
全 陽 606～610

Vol. 32 No. 6

10 急性胆汁うっ滞型の肝障害
全 陽 745～749

Vol. 32 No. 9

11 その他の組織パターンを示す肝障害(1)
全 陽 1297～1302

Vol. 32 No. 10

12 その他の組織パターンを示す肝障害(2)
全 陽 1416～1421

|||| EUS, EUS-FNA 診断・治療—Tips & Tricks(連載) |||||

Vol. 32 No. 1

1 上部消化管病変に対する EUS 診断(1)
木田 光広・川口 佑輔
松本 高明・長谷川力也
金子 亨・山内 浩史
奥脇 興介・宮澤 志朗
岩井 知久・菊地 秀彦
渡辺 摩也・今泉 弘 121～124

Vol. 32 No. 5

1 上部消化管病変に対する EUS 診断(2)
木田 光広・川口 佑輔
宮田 英治・長谷川力也
金子 亨・山内 浩史
奥脇 興介・宮澤 志朗
岩井 知久・菊地 秀彦
荒木 正雄・渡辺 摩也
今泉 弘 596～605

Vol. 32 No. 6

1 上部消化管病変に対する EUS 診断(3)
木田 光広・川口 佑輔
長谷川力也・宮田 英治
松本 高明・金子 亨
山内 浩史・奥脇 興介
宮澤 志朗・岩井 知久
菊地 秀彦・今泉 弘
小泉和三郎 739～744

Vol. 32 No. 9

2 ラジアル式 EUS による胆膵描出法のコ
ツ
木田 光広・川口 佑輔
宮田 英治・長谷川力也
松本 高明・金子 亨
山内 浩史・奥脇 興介
宮澤 志朗・岩井 知久
菊地 秀彦・渡辺 摩也
今泉 弘 1283～1289

学会だより

Vol. 32 No. 2 JDDW2016 第 20 回 日本肝臓学会大会 田中 榮司 176	Vol. 32 No. 9 第 93 回 日本消化器内視鏡学会総会 五十嵐良典 1264
Vol. 32 No. 3 JDDW2016 第 92 回 日本消化器内視鏡学会 総会 伊藤 透 314	Vol. 32 No. 10 第 103 回 日本消化器病学会総会 多田 稔・小池 和彦 1352
Vol. 32 No. 4 JDDW2016 第 58 回 日本消化器病学会大会 杉山 政則 450	Vol. 32 No. 11 第 72 回 日本消化器外科学会総会 夏越 祥次 1470
Vol. 32 No. 8 第 89 回 日本胃癌学会総会 片井 均 1160	Vol. 32 No. 13 JDDW2017 第 59 回 日本消化器病学会大会 木下 芳一 1712 JDDW2017 第 94 回 日本消化器内視鏡学会総会 乾 和郎 1726

書 評

Vol. 32 No. 1 通常内視鏡観察による早期胃癌の拾い上げ と診断 田尻 久雄 56
--

追 悼

Vol. 32 No. 5 追悼 丹羽寛文先生 中村孝司先生	田尻 久雄・小池 和彦 屋嘉比康治・五十嵐正広 一瀬 雅夫・杉山 政則 藤城 光弘 617～627
--	--

『臨牀消化器内科』編集委員会

編 集 委 員：田尻 久雄，小池 和彦*，五十嵐正広，一瀬 雅夫，杉山 政則，藤城 光弘，屋嘉比康治
（*：学術アドバイザー）

編集協力者：多田 正大，樫田 博史

歴代編集委員：岡 博，島津 久明(故人)，玉熊 正悦(故人)，棟方 昭博，市倉 隆，
中村 孝司(故人)，丹羽 寛文(故人)